

三河のつばやき

鴨川市大山(大山千枚田の近くです)で開かれたサロンに参加してきました。近くに住む「むっちゃん」と呼ばれている方とボランティア数人が中心となり、近くに住む高齢者を集めて、お話をしたり、お昼ごはんを一緒に食べたり、歌を歌ったりする場でした。もともとは社会福祉協議会(社協)が「共助:隣近所と助け合う」を目に見る形にするために推進したもので、社協の方もいらっやっていました。参加している高齢者の元気なこと!最高で92歳の方でしたが、その方の歌に合わせて炭坑節を踊ってきました。そしてご飯のおいしいこと!参加した方が持ってきた夏みかんの皮砂糖漬け、ヒジキ、そらまめのつぶしたもの(名前がわかりません)、肉じゃがや吸い物。地のものをありのままに作ったものがこんなにおいしいとは思いませんでした。私は、そんな皆さんの熱気に押されながら、熱中症のお話をさせていただきました。サロンは鴨川市内に何か所もあり、それぞれ独自の雰囲気を持っていると聞いています。住民がどのようにお過ごし、病院から出て触れ合ってみることも、視点が変わって楽しいと感じました。



地域医療連携室
室長 三河 貴裕

マイグーム お針仕事

手芸にはまっています。好きな生地を選び、それにレースやボタンなどを組み合わせてバックや洋服を作っています。手芸店に行くとお店から出てくるのも大変な位、目移りしてしまいますが楽しい時間です。また、作り方がわからないと本で調べたり、お師匠さんに聞いたりします。時には縫い目が曲がってしまいやり直すこともあるので、出来上がるまでに相当時間はかかってしまいますが、自分で何とか形になったりそれを持って外出した時の喜びは格別です。

もう少し、腕が上がるように技術を身につけたいです。



ミシン針

TOPICS 開催予定の勉強会のご案内 TOPICS

1. いすみ地区看護勉強会「終末期における家族ケア」
日程: 8/22(木) 17:30~19:00
会場: 医療法人SHIODA塩田病院 B棟10階・講堂
対象: 看護師・薬剤師
2. マインドフルネス勉強会
第2回「自分自身の家族との関係性」
日程: 9/14(土) 9:00~16:00
会場: 亀田総合病院 K13ホール
対象: 医療従事者
3. 千葉県内で開催されるELNEC-JJA加キラムの案内
亀田はH26/2/22(土)-23(日)です。
*詳細はプログラムを参照ください。

亀田ホームページ「医療連携情報サイト」
詳細情報をみる為の
ログインID及びパスワード配布の準備が
整いましたので各医療機関さま毎に郵送
にて付与いたします。

1. 亀田メディカルセンターホームページ
2. がん情報サイト
3. 医療連携情報サイト
4. 医療関係者ログイン

*不明な点がありましたらお知らせください。

当院と地域医療連携の覚書を締結については、
暫時行いますので、お知らせさせていただきますよう
お願いいたします。

第2回 福祉総合センターを核とした地域包括ケアの推進



鴨川市ふれあいセンター
健康推進課
牛村 隆一 課長

今回は、地域包括ケアの推進についてお話しをします。地域包括ケアとは、支援が必要な高齢者等に対し、適切に医療、予防、住まい、生活支援サービスが切れ目なく継続的に提供されよう、地域包括支援センターがその中核となり公的またはインフォーマルサービスの活用、医療や介護との連携により取り組むこととされています。このように、国の示した「地域包括ケア」は、高齢者が主な支援対象となっていますが、市民の「生活」に視点をあてて見た場合、家庭の中では、高齢者のみならず児童や障害者のいる世帯もあり、その中には虐待やDV、生活困窮に陥るなど、いろいろな問題が重層的に重なっている多問題ケースも少なくありません。

このため、鴨川市では、国の示す地域包括ケアの枠を拡充し、児童、障害者等も含め、支援が必要な場合には対応できるよう、対象者を問わない包括的なワンストップ相談支援に取り組むこととしました。平成24年度には市直営地域包括支援センターを、「鴨川市福祉総合相談センター」へと改め、また、平成25年度からは、社会福祉法人 太陽会に運営をお願いし「福祉総合相談センター・天津小湊」を開設しました。これは、千葉県が取り組む中核地域生活支援センター以外では、千葉県下の市町村では初めて、全国の中でも数少ない取り組みです。これにより、支援が必要な児童、障害者、高齢者等からの相談支援は、迅速かつ横断的な対応が可能になったことに加え、鴨川市社会福祉協議会との地域支援により、地域住民や多くの関係団体等と顔の見える関係づくりから地域がつながり始め、徐々にですが漏れなくカバーされる体制のシステム化が図られています。

「行政との連携が大切」

亀田訪問看護センター 所長 小原 裕子

私は地域医療支援部内にあります訪問看護センターで勤務し、今年10年目を迎えました。地域医療支援部内は色々な職種が入りその都度連携もとれ、チーム医療を展開していますが、院外との連携は日中地域への訪問がなかなか出来ないのが現状です。この度鴨川市ふれあいセンターより地域医療連携会議へのお誘いを頂きました。鴨川市内の4つの訪問看護ステーション所長が2月より会議に出席させて頂き、現状や困っている事などの課題を出し、困難事例などについては早めの対応をして頂けるように情報交換をしていく事になりました。ステーションの対象者は乳幼児から高齢者まで幅広く、医療保険、介護保険など、介護保険の対象者はケアマネージャーが地域での生活を支える為のサービスを検討してくれますが、対象外の乳幼児から青年、70才前の介護保険の対象からはずれた方にはサービスが確立されていないのが現状です。その為にも色々な相談は行政との連携が必要不可欠です。当院は周産期センターもあり重症な乳幼児と母親への支援は大変難しく、また大切な仕事ですので退院前よりチームでの関わりは非常に大事な業務となります。地域に帰って安心して生活する為には行政との連携が非常に大切です。今回地域医療会議に参加させて頂き大変心強く感じました。私共のステーションは医療依存度の高い、重症者の受け入れをしていますが他のステーションでも同じような受け入れが出来るように、地域の先生方のご指導を頂きながら質の向上に努めて行きたいと思っております。亀田病院では常にベッドが満床状態ですので、行政や地域の方、事業所の協力を得ながら対象者が自宅での療養を希望されている場合は、安心して生活出来るように24時間支援していきますので、どうぞ今後とも宜しくお願い致します。